

2023年「卒業生キャリアアンケート」調査実施報告書

2023年5月吉日

東邦音楽大学キャリア支援センター

実施概要

- ・目的: 本学の教育内容や学修環境改善等の参考とする。また、在学生の進路選択の一助とするとともに、卒業生の卒業後のキャリアサポートの充実を目途とする。
- ・実施方法: アンケート回答依頼を郵送のうえ、web (Google フォーム) 回答を依頼 (回答は web のみ)
- ・アンケート対象者: 卒業後3年目 (令和元年度/R2年(2020年)3月卒業) の89名 (卒業生総数107名から宛先不明18名を除く)。大学院: 14名(宛先不明2)、大学: 44名(宛先不明14)、短大: 31名(宛先不明2)
- ・実施期間: 2023年4月6日発送/回答締切: 2023年4月28日
- ・回収率: 28% (回答件数: 25件。※2022年: 12%、2021年: 22%)

今回の回答数は25件(28%)で、昨年の2倍を超える回収率となり、一般的に20~30%に留まるとされる郵送調査の回収率¹⁾の範囲内である。回収率向上の方策として、本アンケートが教育の質向上に寄与する重要な位置づけであることを踏まえ、キャリア支援委員会をはじめ各種会議等において関係者への周知や該当卒業生への回答促進への協力を依頼したことが本結果に繋がったといえる。引き続き経年比較等も含めさらなる分析を進め、継続調査を実施のうえデータを蓄積していくことが望ましい。

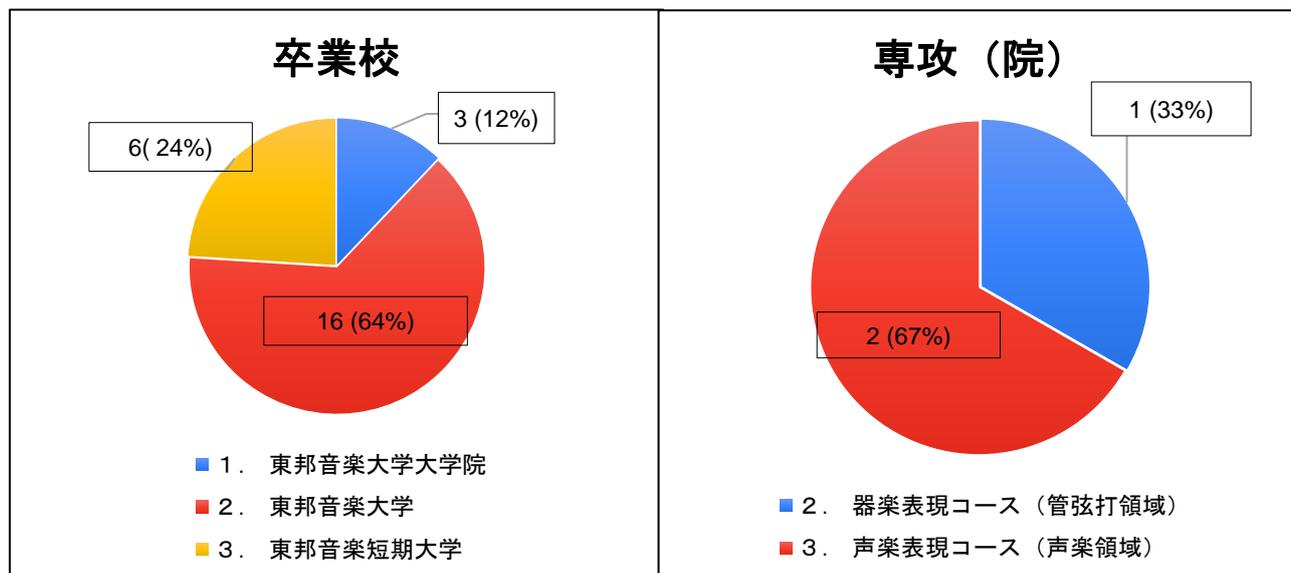
1) 大谷信介, 木下栄二, 後藤範章, 他: 社会調査へのアプローチ [第2版] 論理と方法, pp. 6-7, pp. 165-178 (2005) ミネルヴァ書房,

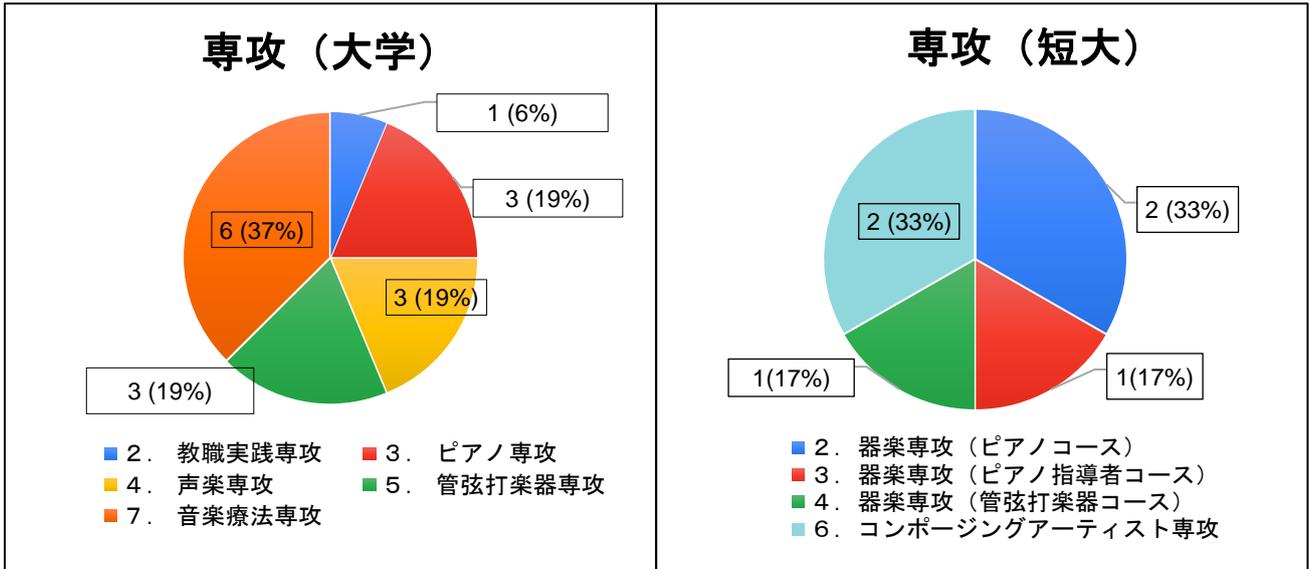
京都

1. 調査結果と考察

※各グラフ内における(%)の前に記載している数値は、回答人数の実数。

【Q1、Q2】卒業校及び専攻・コース

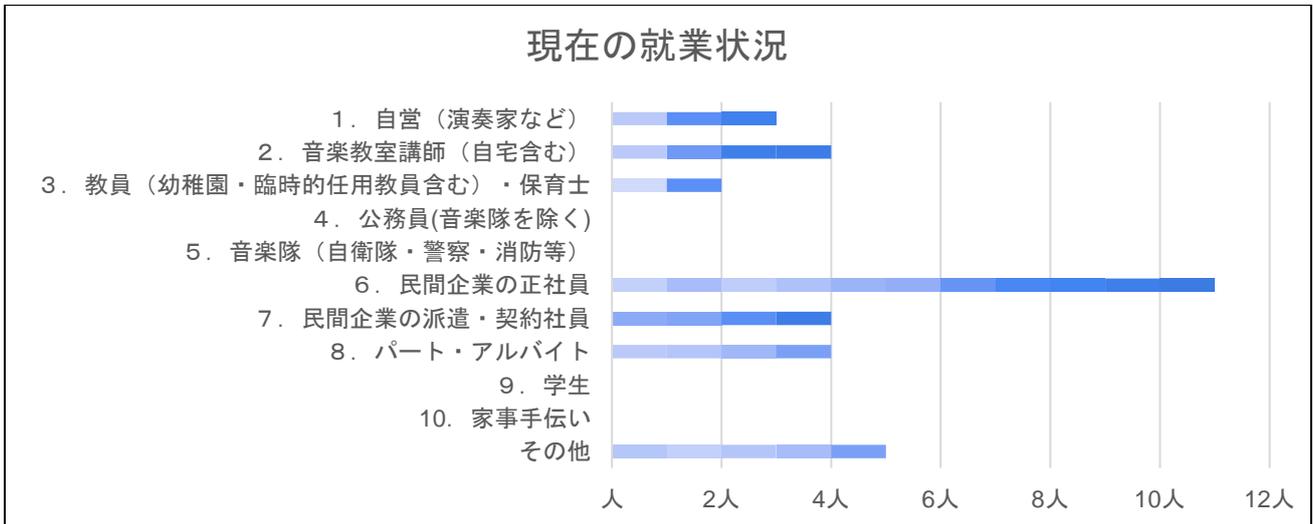




卒業校	回答数	専攻・コース
大学院	3	声楽（1）、管弦打楽器（2）
大学	16	教職実践（1）、ピアノ（3）、声楽（3）、管弦打（3）、音楽療法（6）、
短期大学	6	ピアノ（2）、ピアノ指導者（1）、管弦打（1）、CA（2）

（ ）内は回答人数

【Q3】あなたの現在の就業状況についてお伺いします（複数回答）



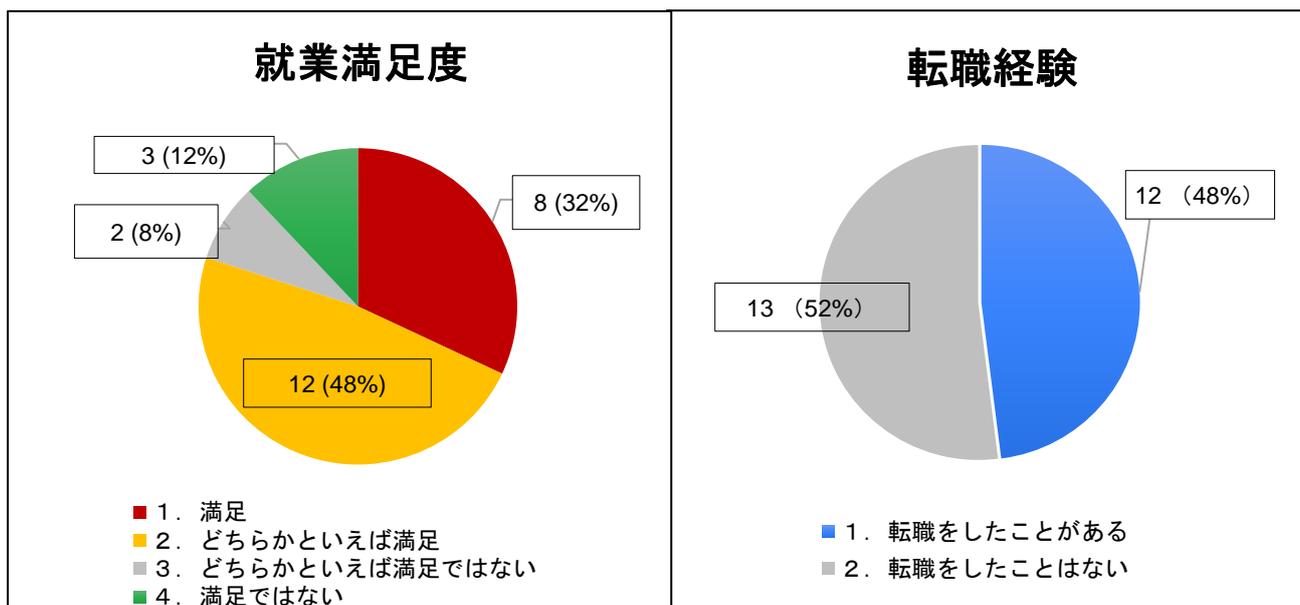
<自由記述：業界、会社名等>

小学校教員、スーパーオートバックス戸田、コムテック株式会社、国際NGO団体、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、聖歌隊→株式会社ファーシー、電子機器などの製造工場、システムエンジニア、サービス業界、業務用エアコン専門会社、株式会社 河合楽器製作所、クリアテクノロジー株式会社 医療・福祉・教育業界、株式会社 Out Sorcing Technology、株式会社ノア

2021年、2022年においては、「音楽教室」が最も多かったのに対し、2023年では、「民間企業の正社員」が突出して多く、次いで「音楽教室」、「民間企業の派遣・契約社員」、「パート・アルバイト」の3項目が同数であった。就業状況と専攻における相関については、今後、過年度データを総合的に分析することで新たな知見が得られると推察する。

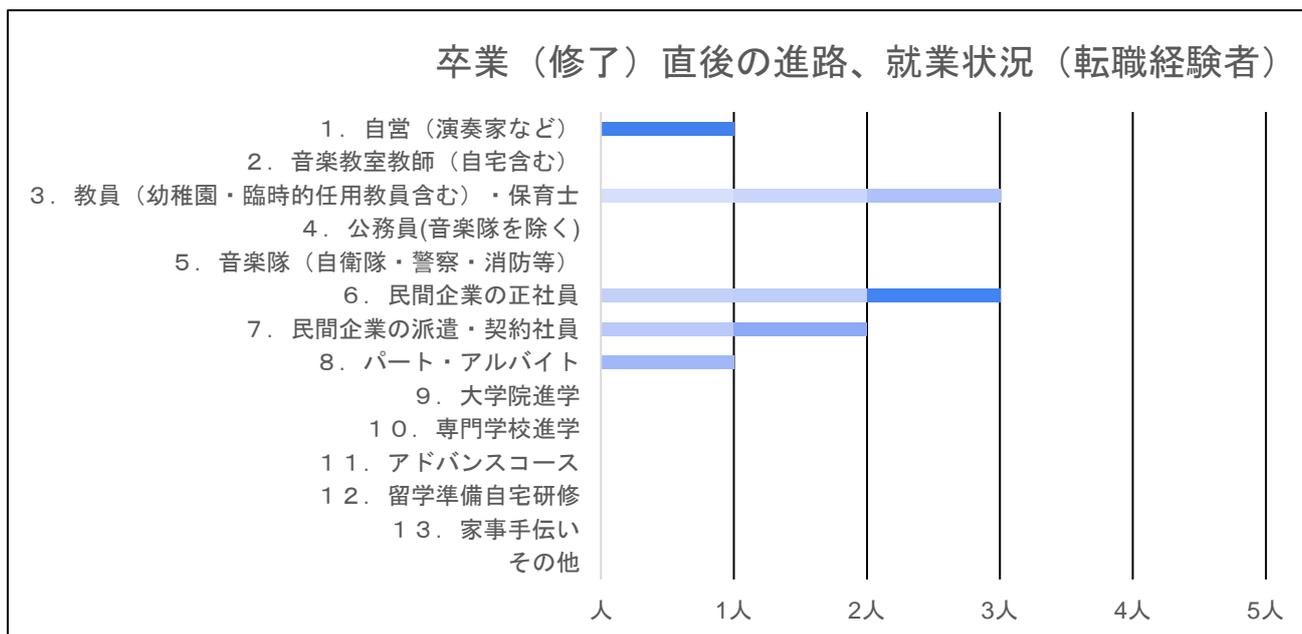
【Q4】現在の就業状況に満足していますか

【Q5】卒業（修了）直後からこれまでに、転職をしたことがありますか



現在の就業状況では「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせると80%であった（2020年82%、2021年100%、2022年91%）。2020年の80%と同程度ではあるものの、ここ2年と比較するとやや満足度が低下している。また、転職経験があると回答したのは48%であり、一般的に言われる3年以内に3割とされる転職率より高い水準であった。2020年27%、2021年30%、2022年36%と転職経験者が微増していることは今後の経過に注視を要することが伺える。一方、2020年は新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた年であり、卒業後の3年間にそうした影響もあった可能性も推察される。

【Q6】卒業（修了）直後の進路、就業状況についてお伺いします（Q5において、「転職経験あり」と回答した者（複数回答））



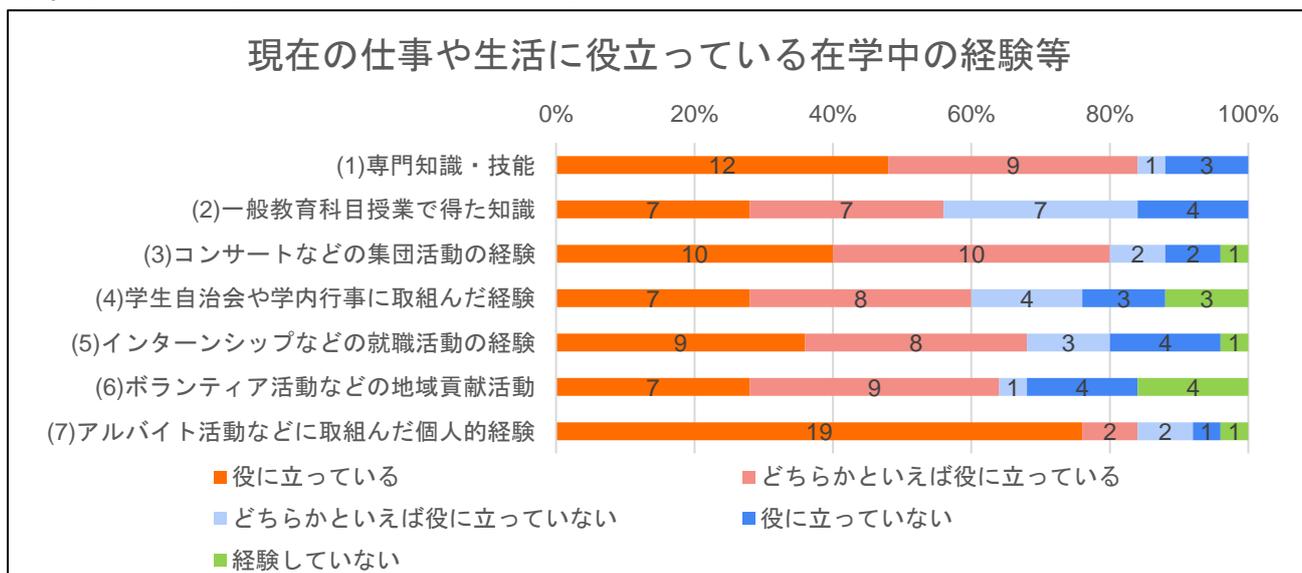
<自由記述：業界、会社名等>

東邦第二高等学校、明和幼稚園、東邦音楽大学附属東邦中学校事務室職員、神戸ホテルジュラク、介護施設などへ提供する弁当の製造、サービス業界、埼玉県警察会計年度職員

母数が少数のため大きな差異は明らかになっていないが、卒業（修了）直後の就職先で最も多かったのが「教員」と「民間企業の正社員」であった（2021年「パート・アルバイト」、2022年「音楽教室」）。

【Q3】の現在の就業状況では、「民間企業の正社員」が突出して多く、他業種から「民間企業の正社員」に転職した卒業生が一定数いることや卒業（修了）直後から現在までの間で「民間企業の正社員」を経験している割合が高いことが伺える。

【Q7】在学中に経験した次の事柄は現在の仕事や生活に役立っていますか



「役に立っている」が単独で高かったのは、「(7)アルバイト活動などに取組んだ個人的経験」であり、次いで「(1)専門知識・技能」であった(2022年は「(1)専門知識・技能」、「(3)コンサートなどの集団活動の経験」)。また、「どちらかといえば役に立っている」を合わせると、「(1)専門知識・技能」と「(7)アルバイト活動などに取組んだ個人的経験」が同数で最も高く、次いで「(3)コンサートなどの集団活動の経験」となっている。本調査の回答者属性として、「民間企業の正社員」(Q3、Q6)が最も多いことを加味すると、現場で働く社会経験としての「(7)アルバイト活動などに取組んだ個人的経験」が単独で高い結果は納得である一方、本学の学びの特徴でもある「(1)専門知識・技能」および「(3)コンサートなどの集団活動の経験」が企業で働く上でも必要な能力とされる能力であるといえる。また、2020年、2021年においても「コンサートなどの集団活動の経験」は各々1番目、2番目に高かった項目であり、回答者属性に関わらず卒業生にとって有益な経験と位置づけられていることが伺える。

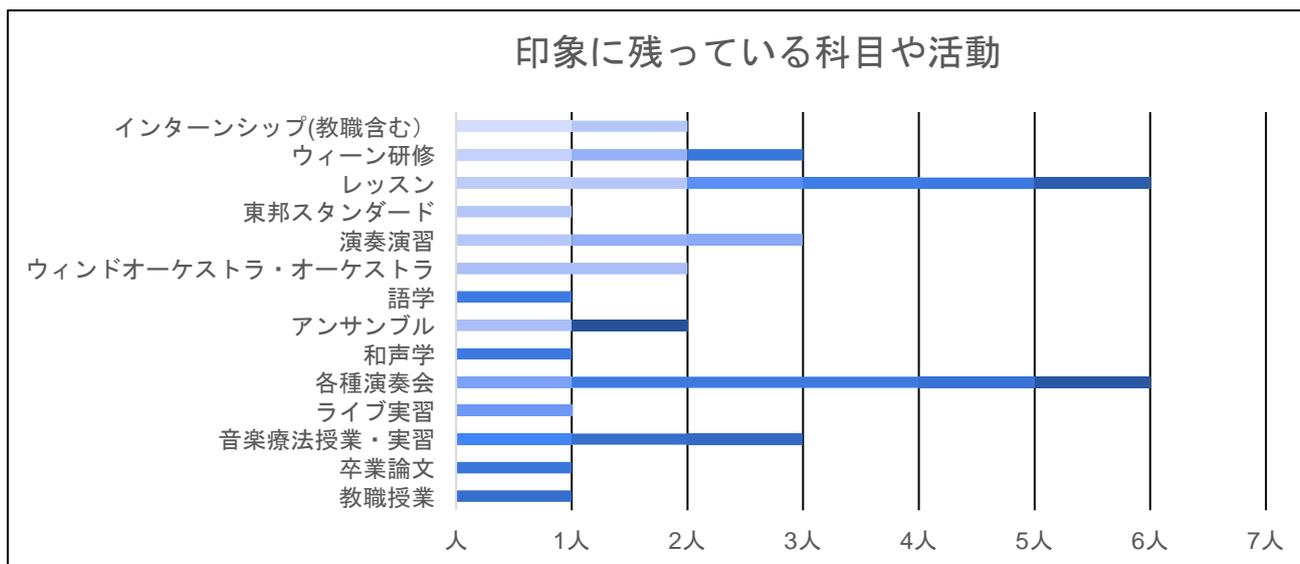
【Q8】在学中に、このようなキャリア支援があればよかったなどありましたらご記入ください

1	将来に役立つ資格取得の案内など(大学)※
2	様々な業種の就職試験対策など(大学)※
3	音楽関係以外の職業の種類を知りたかった(短大)※
4	卒業生のリアルな声を聞く場(大学)※
5	音楽を教えたり、自営で活動を行ったりする際、「企業で稼働すること」や、「フリーランス」として活動する上でそれぞれ「どのように生計を立て、仕事を通して、何が重要視されるのか」、ということを知れる機会があると、より良いのではないかと、稼働してみて感じております。また、お客様への電話対応等も学生の内に身に付けられるような機会があると、稼働するようになってから、更に役に立てるような気がいたしました。(大学)※
6	税金や個人事業での確定申告のこと(大学)※
7	求人情報の告知(メールなど)(短大)※

注) 自由記述を抜粋のうえ転載。()内は回答者学校種。※については既実施。

「1 資格取得案内」「2 就職試験対策」「3 音楽関係以外の職業の種類」「7 求人情報の告知」については、学内掲示や各種ガイダンス(東邦スタンダード含む)、キャリア支援センター面談時等やセンターからのメール等で適宜案内を実施している。「5 電話対応」については「マナーセミナー(インターンシップ参加学生必須および他学生参加可能)」において一般的なマナーを教えている。実施している内容が広く学生に周知されるように学生へのアプローチにもさらに尽力したい。「4 卒業生のリアルな声を聞く場」は、2022年度より「卒業生座談会」を実施し、各業界の卒業生と在学生の少人数での交流の場を設けている。「5 フリーランスで働くうえでの重要な事項など」については、東邦スタンダード授業内で教員から話を聴く機会が設けられている。「6 税金や確定申告」については、東邦スタンダード授業内で大学・短大ともに外部より専門の講師を招聘し網羅的に学んでいるが、個人事業主として必要な確定申告等に関する内容についても、今後検討する一助としたい。既に、短大においては本年度から当該内容の授業を実施予定となっている。

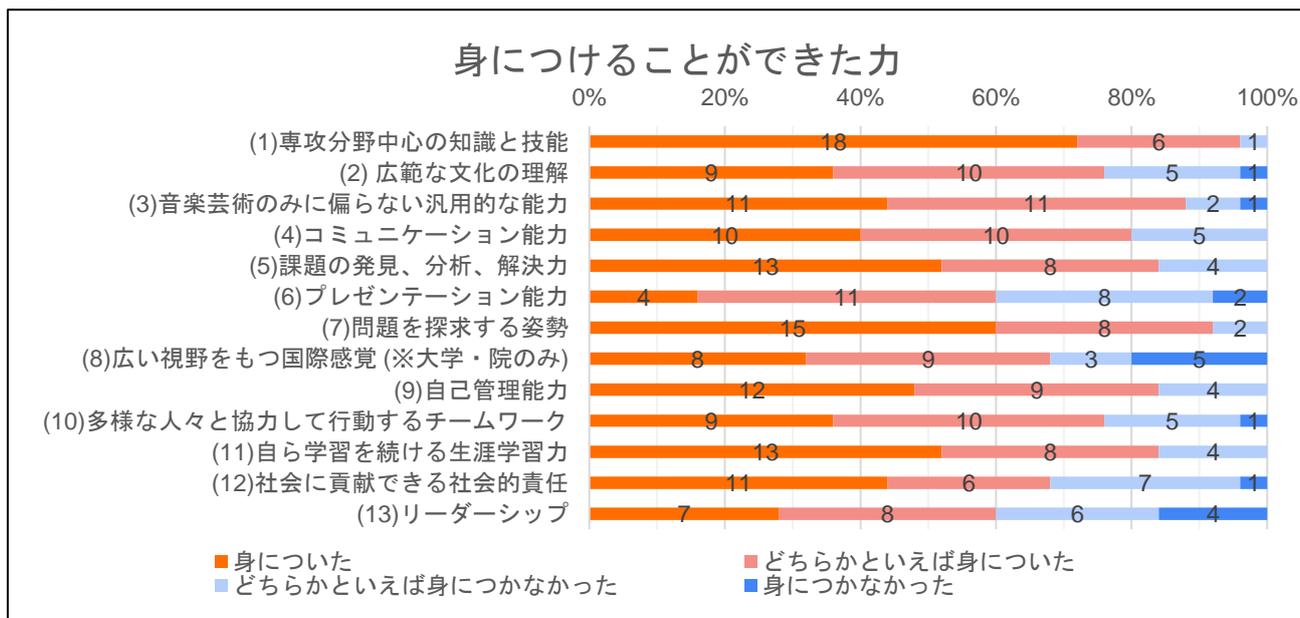
【Q9】 在学中に印象に残っている科目や活動（演奏活動含む）はどのようなことですか（複数回答）



注) 自由記述を分類分けしグラフ化

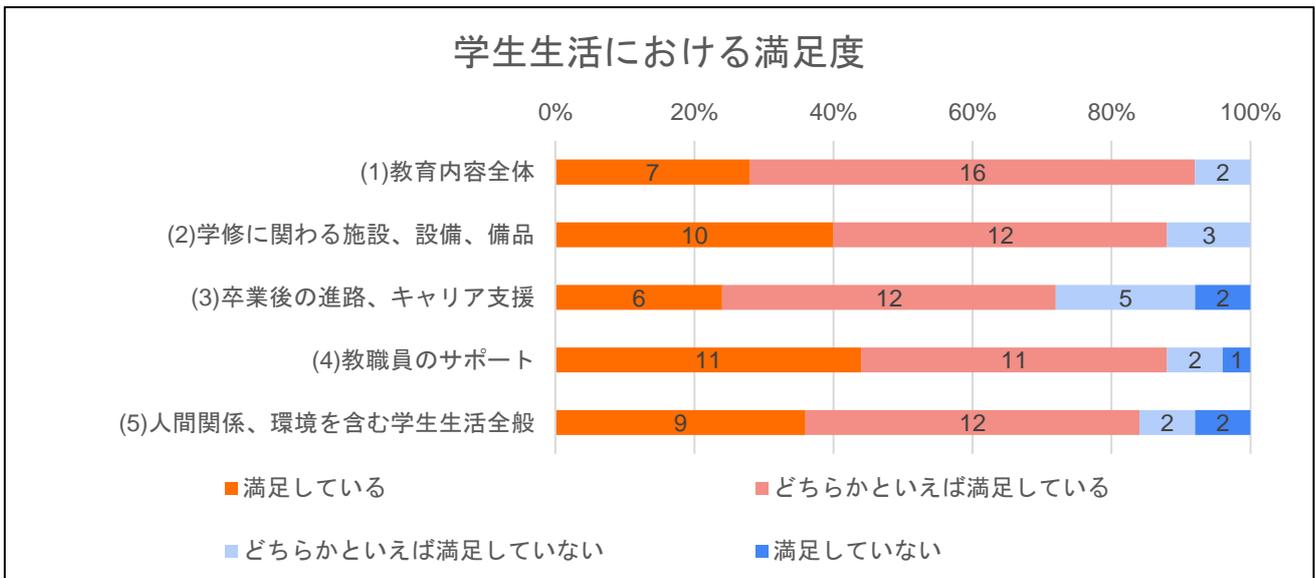
「レッスン」と「各種演奏会」が同数で最も高い結果となった。「レッスン」は2020年、2021年、2022年においても上位項目であり、「各種演奏会」も昨年に続き上位項目となった。音楽大学の特徴でもある科目が例年高い結果となっており、学生の満足度も高いことが伺える。他の回答項目については、実施年ごとに回答に挙げられる科目等が異なるため、単年での差異は見出しにくい。サンプル数を確保するために過年度データを総合的に分析することで、科目等における差異などが見いだせる可能性が推察される。

【Q10】 本学で身に付けることができた力について伺います



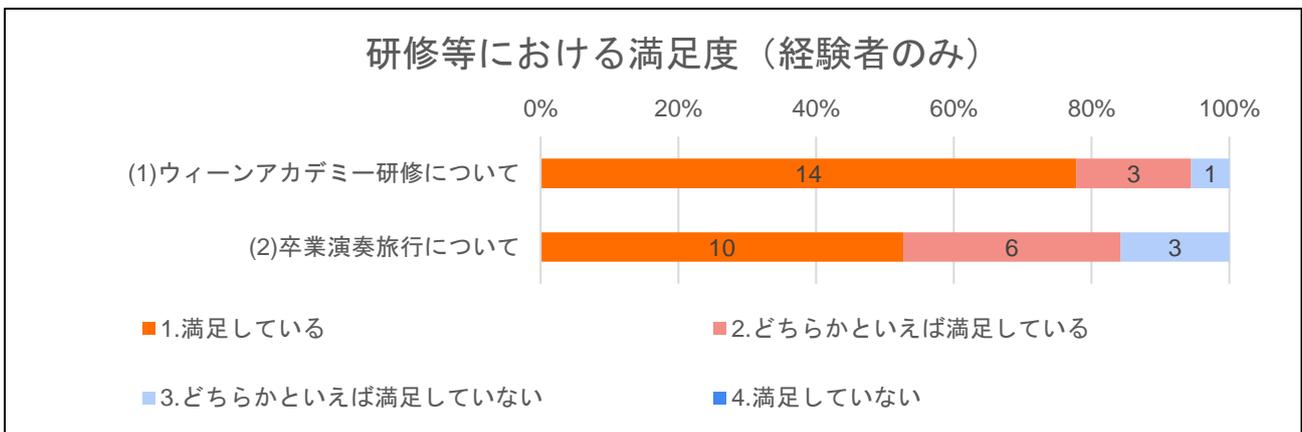
「身についた」が最も高かったのは「(1)専攻分野中心の知識と技能」であり、次いで「(7)問題を探求する姿勢」、続いて同数で「(5)課題の発見、分析、解決力」、「(11)自ら学習を続ける生涯学習力」であった。昨年も「(1)専攻分野中心の知識と技能」は同様であり、「(5)課題の発見、分析、解決力」についても上位項目となっている。また、昨年よりもやや低下しているものの「身についた」、「どちらかといえば身についた」を合わせると13項目中9項目で70%を超えており、そのうち7項目は80%以上だった。引き続き、学生がディプロマポリシーで求められている能力が達成できるよう、また大学として音楽大学の特性を活かした学びを提供できるように検討が望まれる。

【Q11】 本学での学生生活における満足度について伺います



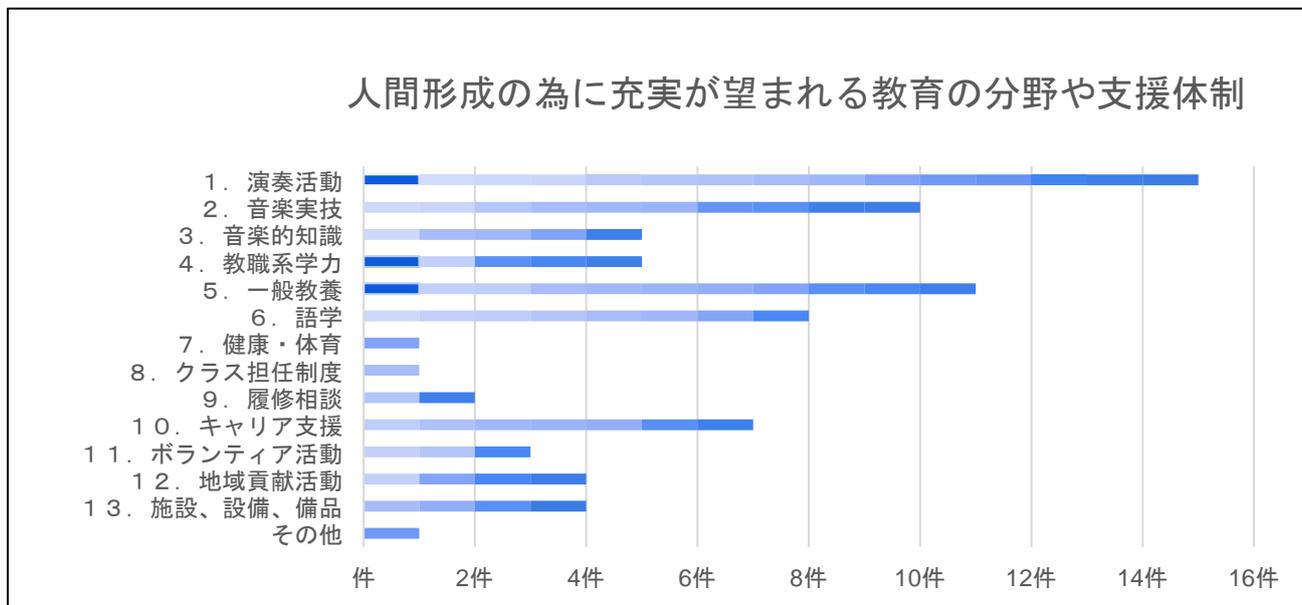
「満足している」が最も高かったのは、昨年同様「(4)教職員のサポート」であった。「どちらかといえば満足している」を合わせると、「(1)教育内容全体」が最も高く、次いで「(4)教職員のサポート」、「(2)学修に関わる施設、設備、備品」が同数であった。5項目中3項目で約90%が満足している（「どちらかといえば満足している」を合わせる）結果となり、昨年とほぼ同様となった（2022年は5項目中4項目）。

【Q12】 本学での以下の経験における満足度について伺います



当該研修等を経験した者のみの回答では、いずれも 80%以上が満足しており(2020 年、2021 年、2022 年共に同数値)、本学の特色である両カリキュラムが学生から一定数評価されていることが継続的に示された結果となった。

【Q13】本学での学生生活を振り返って、人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制について伺います(複数回答)



「(1)演奏活動」が最も高く、次いで「(5)一般教養」、「(2)音楽実技」の順であった。「(1)演奏活動」は例年同傾向であるが、回答者属性(Q3、Q6)で一般企業の就業者の割合が高かった2020年は「(5)一般教養」が最も高かった。本調査においても、一般企業の就業者の割合が高いことから、「(5)一般教養」が昨年より高い傾向となったことが推察される。また、「(6)語学」が例年より上位に入っている点については、経年での推移に注視したい。

2. まとめ

本調査から、得られた示唆は以下のとおりである。

- (1) 現在の就業状況(Q4)では80%が満足しており(「満足」、「やや満足」を合算)、2020年調査時と同程度であるものの、2022年の91%を下回った。転職経験者(Q5)は48%であり、一般的な離職率の3割を上回る結果となった。本調査対象者が卒業した2020年3月は、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた年であり、卒業後の3年間にそうした影響もあった可能性も推察されるが、今後の経過に注視することが求められる。
- (2) 本学で身に付けることができた力(Q10)では、13項目中7項目において、身についた(「身についた」、「どちらかといえば身についた」を合算)が80%を超える回答であり、4項目で70%を超える結果となった。「専攻分野中心の知識と技能」、「課題の発見、分析、解決力」は、過去3年においても同様に高い結果が示されている。ディプロマポリシーに掲げているように、音楽

の専門技能を身に付けるだけでなく、音楽での学びを通じて学生が課題解決力や表現力を身に付けられるように、音楽大学の特性を活かしたカリキュラムを充実させることが望まれる。

- (3) 学生生活における満足度では (Q11)、5 項目中 3 項目 (「教育内容全体」、「教職員のサポート」、「学修に関わる施設、設備、備品」) で、約 90%が満足している (「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合算) ことが明らかとなった (2021、2022 年も同程度)。近年、高水準となっている在学中の満足度の維持に引き続き尽力することが望まれる。
- (4) ウィーン研修・演奏演習 (Q12) については、満足している割合が 80%を超える結果であった (経験者のみ)。過去 3 年においても同傾向であったことから、本学の特色ある教育が学生から継続的に高く評価されていることが示された。
- (5) 人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制 (Q13) では、「演奏活動」が最も高く、次いで「一般教養」、「音楽実技」の順であった。本調査においては、一般企業の就業者の割合が高いことから、「一般教養」が昨年より高い傾向となったことが推察される。過年度においても「演奏活動」、「音楽実技」は上位項目であり、本学が音楽大学であるという特性を鑑みても音楽分野の教育・支援体制について、一層の充実が望まれることが示された。また、「語学」が例年より上位に入っている点については、経年での推移に注視したい。

以上